株式会社ミマキエンジニアリング

株式会社ミマキエンジニアリング

2027 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2026 年 11 月 19 日

イベント概要

[企業名]	株式会社ミマキエンジニアリング
[企業 ID]	6638
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2027 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2027 年度　半期
[日程]	2026 年 11 月 19 日
[ページ数]	32
[時間]	11:00 – 12:00 （合計：60 分、登壇：37 分、質疑応答：23 分）
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 常務取締役 CFO　　清水　浩司（以下、清水）

登壇

司会：まもなく開始しますので、このまましばらくお待ちください。

皆さまお待たせしました。ただいまより、株式会社ミマキエンジニアリング 2027 年 3 月期第 2 四半期決算説明会を開催します。お忙しい中ご視聴くださいまして、誠にありがとうございます。本日は会社側からのプレゼンテーションの後に質疑応答の時間を設けております。なおお時間の関係で、全ての質問へのご回答が難しい場合がございます。あらかじめご了承ください。説明会終了時刻は 12 時頃を予定しております。

それでは本日のご説明者を紹介します。常務取締役 CFO 清水浩司です。よろしくお願いします。

清水：皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、私どもの決算説明会にご参加をいただき、誠にありがとうございます。改めましてミマキエンジニアリングの清水です。

最初に 2027 年 3 月期第 2 四半期並びに上期の実績について、その後に 11 月 6 日に公表しております修正後の通期業績予想について、最後に上期のトピックスとして新製品の内容等をご説明する予定です。



連結業績ハイライト、2 クォーター3 か月の実績のサマリーです。業績の詳細につきましては次のスライド以降でご説明申し上げます。2 クォーター3 か月の PL サマリーです。まず売上高ですが、前年同期比 18.0%増の 235 億 5,800 万円となり、予想比でも上振れの着地となりました。為替のプラス影響もありまして、四半期としては過去最高の売上高となりました。



製品市場別に見ますと、SG 市場向けでは特に今年の春に発売した新製品 330H 等が牽引しまして、伸長した他、IP 市場向けも大判、小型フラットベッドモデルともに、好調に推移しました。TA は DTF プリンタが軟調でしたが、昇華転写プリンタは好調に推移しました。また、インクは SG、IP、TA それぞれの市場で全般的に好調に推移し、二桁増となりました。

営業利益は、前年同期比 61.2%増の 33 億 1,400 万円となりました。売上の増加に加えまして、前期支払をしました米国の追加関税の還付、それから為替の寄与もあり、クォーターとしては過去最高で、営業利益率は 14.1%でした。原価率の低減に向けた活動、それから米国の関税の影響もありまして、原価率が改善したほか、また販管費のところでは人件費、また研究開発といった将来への成長投資、これを計画どおり執行したところです。

連結業績ハイライト③　（2027年3月期 上期実績）



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

4 ページ。こちらのスライドは、上期 6 か月のサマリーです。業績の詳細につきましては次のスライド以降でご説明します。上期 6 か月の PL サマリーです。

連結業績ハイライト④　（2027年3月期 上期実績）

（単位：百万円）		2026年3月期 上期実績	2026年3月期 売上高比率	2027年3月期 上期実績	2027年3月期 売上高比率	2027年3月期 前年同期比増減 金額	2027年3月期 前年同期比増減 率	2027年3月期 前年同期比増減 率(除為替)	2027年3月期 前回予想	2027年3月期 前回予想比増減額
売上高		39,379	–	**43,611**	–	+4,231	+10.7%	+3.8%	43,200	+411
営業利益		3,990	10.1%	**5,665**	13.0%	+1,675	+42.0%	+10.8%	4,000	+1,665
経常利益		3,764	9.6%	**5,462**	12.5%	+1,697	+45.1%	–	3,600	+1,862
中間純利益*		2,753	7.0%	**4,036**	9.3%	+1,282	+46.6%	–	2,500	+1,536
為替レート（期中平均）	米ドル	146.04円	–	159.37円	–	+13.33円	+9.1%	–	146.00円	+13.37円
	ユーロ	168.06円	–	184.35円	–	+16.29円	+9.7%	–	170.00円	+14.35円

*親会社株主に帰属する中間純利益

- 売上高は、前年同期比 4,231百万円の増収（＋10.7%、内為替影響 ＋2,724百万円）予想比上振れ。為替影響を除きでは3.8%増
  製品市場別は、SG･IP･TAの前期から当期にかけて投入した新製品が牽引。インクは各市場で大幅伸長
  FAは半導体製造装置やFA装置が順調となり軟調の前年同期との比較では大幅に増収
- 営業利益は、前年同期比 1,675百万円の増益（＋42.0%、内為替影響 ＋1,244百万円）営業利益率は13.0%。予想比上振れ
  売上の増加をはじめ、原価低減活動に加えて米国の追加関税還付や為替影響により、増益。販管費は、為替影響及び人件費等が増加
- 2Q末バランスシート･･･重点指標CCC*は、在庫効率の向上により運転資本が改善
  （2026.3末：4.67月 →26.6末：5.48月 →26.9末：4.76月）

*CCC：Cash Conversion Cycle

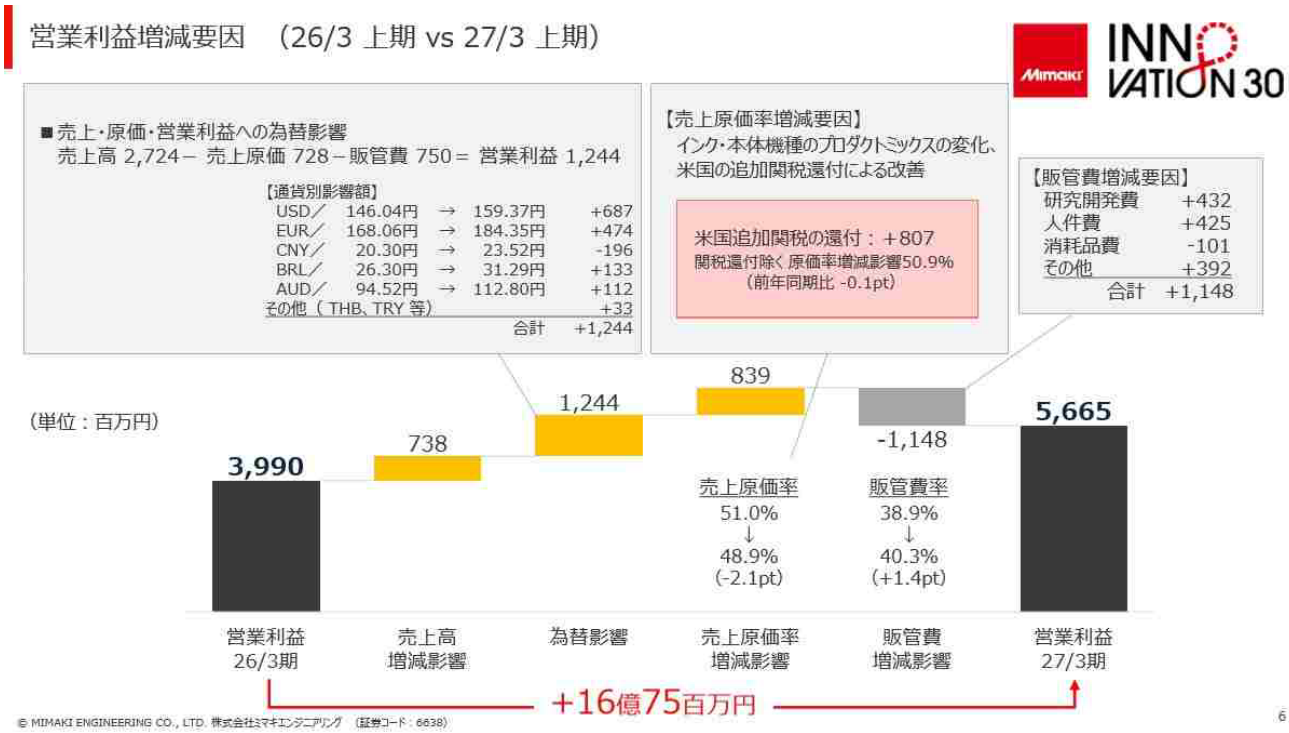
© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

まず売上高は前年同期比 10.7%増の 436 億 1,100 万円となりました。予想比でも上振れです。

SCRIPTS Asia's Meetings, Globally

前期から当期にかけて投入した新製品、それぞれ SG、IP、TA でしたが、新製品を中心に売上牽引し、インクも各市場で大幅に伸長したところです。為替による押上効果もございましたが、為替の影響を除いても 3.8%増で、実態ベースでも増収を確保できたと認識しております。

営業利益におきましては前年同期比 42.0%増の 56 億 6,500 万円となりました。増収効果それから原価率低減活動、為替のプラス影響に加え、先ほど申し上げました米国の追加関税の還付等もありまして、大幅な増益となりました。なお追加関税の還付による損益の影響は、およそ 8 億円です。これはこの上期に限った一過性の特殊要因という認識でおります。



続きまして 6 ページ。営業利益のこの上期の増減要因です。一番右側の研究開発費、人件費等、Mimaki Innovation 30 の方針に沿って、主に成長投資の増加によりまして販管費が 11 億円増加しておりますが、増収効果でおよそ 7 億円、為替の影響で 12 億円、また原価率の改善効果で約 8 億円、全体としては 16 億 7,500 万円の増益です。

なおこちらの原価率の改善要因のところには、先ほど申し上げました米国の追加関税還付が含まれております。従いまして上期の利益としては、一過性の押上要因と、為替の寄与が相応に含まれてはおりますが、一方で増収効果、特にインクの伸長など、事業のベースの改善には着実に進んだのではないかと考えております。

市場別売上高（2027年3月期 2Q実績）



(単位：百万円)	2026年3月期 2Q実績	2026年3月期 構成比率	2027年3月期(7-9月) 2Q実績	前年同期比増減 金額	前年同期比増減 率	前年同期比増減 率(除為替)	2027年3月期(7-9月) 構成比率
ＳＧ市場向け	8,314	41.6%	9,817	+1,503	+18.1%	+11.3%	41.7%
ＩＰ市場向け	4,967	24.9%	5,426	+458	+9.2%	+3.9%	23.0%
ＴＡ市場向け	2,410	12.1%	2,524	+114	+4.7%	-1.3%	10.7%
ＦＡ事業	905	4.5%	1,843	+937	+103.6%	+100.3%	7.8%
その他	3,369	16.9%	3,946	+577	+17.1%	－	16.8%
合　計	19,966	100.0%	23,558	+3,592	+18.0%	+12.2%	100.0%

- SG市場向け　：プリンタ本体は、春のリリースの新製品であるハイブリッドモデルは、価格競争力と高付加価値が評価され、需要が好調に推移。UV硬化式モデルの新製品も好調により２桁成長。インクも2桁成長となり、SG全体でも２桁増収と高水準
- IP市場向け　：プリンタ本体は、前期下期に市場投入した小型FBモデル及び大判FBも好調により伸長。インクは好調に推移し、IP全体も増収
- TA市場向け　：プリンタ本体は、新製品などの昇華転写モデルが好調も、特定用途の専用機種やDTFモデルの減により本体は減収。インクは２桁増収により、TA全体では増収
- FA事業　：FA装置のほか、基板検査装置や半導体製造装置の順調な推移により増収

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

こちらは 2 クォーター3 か月の市場別の売上高です。まず SG 市場向けの売上高は、前年同期比 18.1%増の 98 億 1,700 万円となりました。この春にリリースをしましたハイブリッドモデル 330H のほか、UV インクの UJV200 と、新製品が好調に推移し、本体としても 2 桁成長です。またインクも 2 桁成長で、SG 市場全体としては大幅な増収です。

IP 市場向けの売上高は、前年同期比 9.2%増の 54 億 2,600 万円となりました。本体は、昨年の下期に市場投入しました、小型のフラットベッドモデル、また大判のフラットベッドモデルも好調に推移しました。インクも全般的に好調に推移し、IP 全体としても増収です。

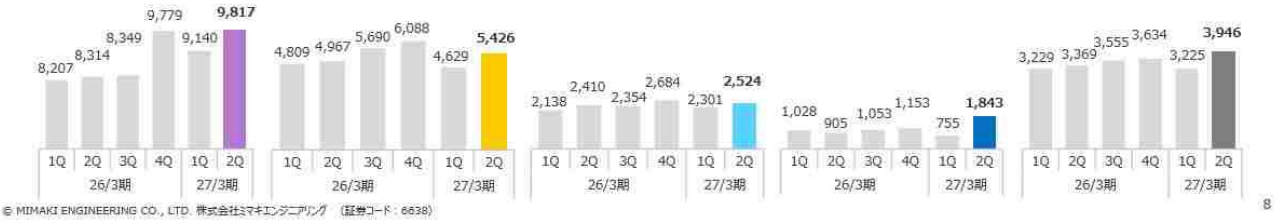
TA 市場向けの売上高は、前年同期比 4.7%増の 25 億 2,400 万円となりました。DTF モデルは減少ですが、新製品の昇華転写モデルが好調に推移をしました。一方で前年同期比では特定用途の専用機種の特需との比較では本体は減収でしたが、インクは 2 桁成長で、全体としては増収を確保しました。

FA 事業の売上高は、前年同期比 103.6%増の 18 億 4,300 万円となりました。非常に大きい増収幅ですけれども、今期はこの 2 クォーターに検収時期が集中し、また昨年は非常に低調であったというところで、前年同期比では大幅な増加です。

市場別売上高（2027年3月期 上期実績）

（単位：百万円）	2026年3月期 上期実績	2026年3月期 構成比率	2027年3月期 上期実績	2027年3月期 前年同期比増減 金額	2027年3月期 前年同期比増減 率	2027年3月期 前年同期比増減 率(除為替)	2027年3月期 構成比率	2027年3月期 前回予想	2027年3月期 前回予想比増減額
ＳＧ市場向け	16,521	42.0%	**18,957**	+2,436	+14.7%	+6.4%	43.5%	18,091	+866
ＩＰ市場向け	9,777	24.8%	**10,055**	+278	+2.8%	-3.4%	23.0%	11,037	-981
ＴＡ市場向け	4,548	11.6%	**4,826**	+277	+6.1%	-1.6%	11.1%	5,383	-557
ＦＡ事業	1,933	4.9%	**2,598**	+665	+34.4%	+32.7%	6.0%	2,323	+275
その他	6,598	16.8%	**7,172**	+573	+8.7%	–	16.4%	6,363	+809
合 計	39,379	100.0%	**43,611**	+4,231	+10.7%	+3.8%	100.0%	43,200	+411

SG市場向け　IP市場向け　TA市場向け　FA事業　その他



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

8

市場別の売上高、上期 6 か月の実績です。この上期市場別に振り返ってみますと、特に SG が新製品を中心に好調に推移し、前年同期比で 14.7%増と大幅な増収となりました。

一方 IP 市場向け TA 市場向けは、円ベースでは増収を確保しましたが、為替の影響を除くと前年を下回りました。IP は、これ本来であれば前期に投入予定だった一部の新製品が、遅れたことが影響しました。TA は、インク自体は順調に伸びておりますが、DTF モデルの弱含みが影響しました。この後ご説明申し上げます 9 月に投入した新製品をしっかりと立ち上げて、下期以降の売上の挽回・拡大につなげていく考えです。

エリア別売上高（2027年3月期 2Q実績）*販売先ベース



(単位：百万円)	2026年3月期 2Q実績	2026年3月期 構成比率	2027年3月期(7-9月) 2Q実績	前年同期比増減 金額	前年同期比増減 率	2027年3月期(7-9月) 構成比率
日本	5,185	26.0%	6,584	+1,399	+27.0%	28.0%
北米	4,589	23.0%	5,241	+651	+14.2%	22.2%
（現地通貨/$）	31.1M	–	32.9M	+1.8M	+5.8%	–
欧州	4,266	21.4%	5,028	+761	+17.8%	21.3%
（現地通貨/€）	24.7M	–	27.4M	+2.7M	+11.1%	–
アジア・オセアニア	3,793	19.0%	4,381	+587	+15.5%	18.6%
その他	2,130	10.7%	2,322	+192	+9.0%	9.9%
合 計	19,966	100.0%	23,558	+3,592	+18.0%	100.0%

- 日本： IP本体は大判・小型FB共に好調。SG本体は、春リリースのハイブリッドモデルやUV硬化式、エコソルベントともに好調に推移し大幅に増加。TA本体はDTF,昇華転写ともに高生産モデルが好調。インクは、TAが好調、IPも堅調に推移も、SGは減少し前年並み。全体はFAのFA装置等の順調もあり２桁増収
- 北米： SG本体はハイブリッドモデルやUV硬化式・エコソルベントも好調。TAはDTFモデルの減少により減少。インクは各市場ともに２桁増。全体でも好調に推移
- 欧州： IPはミドルクラスなど大判・小型FB好調。TA本体は昇華転写モデル好調もDTFの影響により減少。インクはTA・SGが大幅に伸長及び為替の円安によるプラス影響もあり全体は２桁増収。
- A・O： IP本体は小型FBモデル好調、SGは新製品好調もエコソルベントが軟調により減少。TAはDTF減により減少。インクは各市場ともに２桁増。全体も好調に推移

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

エリア別の売上高、2 クォーター3 か月の実績です。日本の売上高は、前年同期比 27.0%増の 65 億 8,400 万円となりました。日本は全般的に好調でしたが、特に IP と SG が伸びました。日本は TA も DTF・昇華転写モデルともに、好調に推移しました。インクも全般的に好調に推移し、加えて FA の増加もありまして、日本のエリアとしては 27%増で大幅な増収です。

北米の売上高は、14.2%増の 52 億 4,100 万円となりました。北米では TA は、DTF の減少がございましたが、IP を中心に好調に推移したことに加え、インクも特に TA、SG が大幅に伸長し、全体でも大幅な増収となりました。

欧州の売上高は前年同期比 17.8%増の 50 億 2,800 万円となりました。こちらも特に IP が好調に推移したほか、インクも TA、SG を中心に大幅に伸長し、2 桁成長です。

アジア・オセアニアの売上高は、前年同期比 15.5%増の 43 億 8,100 万円となりました。SG は特にエコソルベントモデルが軟調でしたが、IP の小型フラットベッドモデルが好調に推移し、またインクの押上げもありまして全体でも大幅な増収です。

エリア別売上高（2027年3月期 上期実績）*販売先ベース

(単位：百万円)	2026年3月期 上期実績	構成比率	2027年3月期 上期実績	前年同期比増減 金額	前年同期比増減 率	構成比率	前回予想	前回予想比増減額
日本	10,542	26.8%	**11,798**	+1,256	+11.9%	27.0%	11,628	+170
北米	8,715	22.1%	**10,190**	+1,475	+16.9%	23.4%	9,110	+1,079
(現地通貨/$)	59.6M	–	**63.9M**	+4.3M	+7.2%	–	62.4M	+1.5M
欧州	8,560	21.7%	**9,528**	+967	+11.3%	21.8%	9,950	-422
(現地通貨/€)	50.9M	–	**51.7M**	+0.8M	+1.7%	–	58.5M	-6.7M
アジア・オセアニア	7,242	18.4%	**7,704**	+461	+6.4%	17.7%	7,756	-52
その他	4,318	11.0%	**4,388**	+70	+1.6%	10.1%	4,753	-365
合計	39,379	100.0%	**43,611**	+4,231	+10.7%	100.0%	43,200	+411



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング (証券コード：6638)

10

エリア別売上高上期 6 か月の実績です。こちらについては詳細を割愛させていただきます。

品目別売上高（2027年3月期 上期実績）

(単位：百万円)	2026年3月期 上期実績	構成比率	2027年3月期 上期実績	前年同期比増減 金額	前年同期比増減 率	構成比率
製品本体	13,983	35.5%	**15,276**	+1,293	+9.2%	35.0%
インク	16,025	40.7%	**18,455**	+2,430	+15.2%	42.3%
保守部品	3,598	9.1%	**3,790**	+192	+5.4%	8.7%
その他	5,772	14.7%	**6,088**	+315	+5.5%	14.0%
合 計	39,379	100.0%	**43,611**	+4,231	+10.7%	100.0%

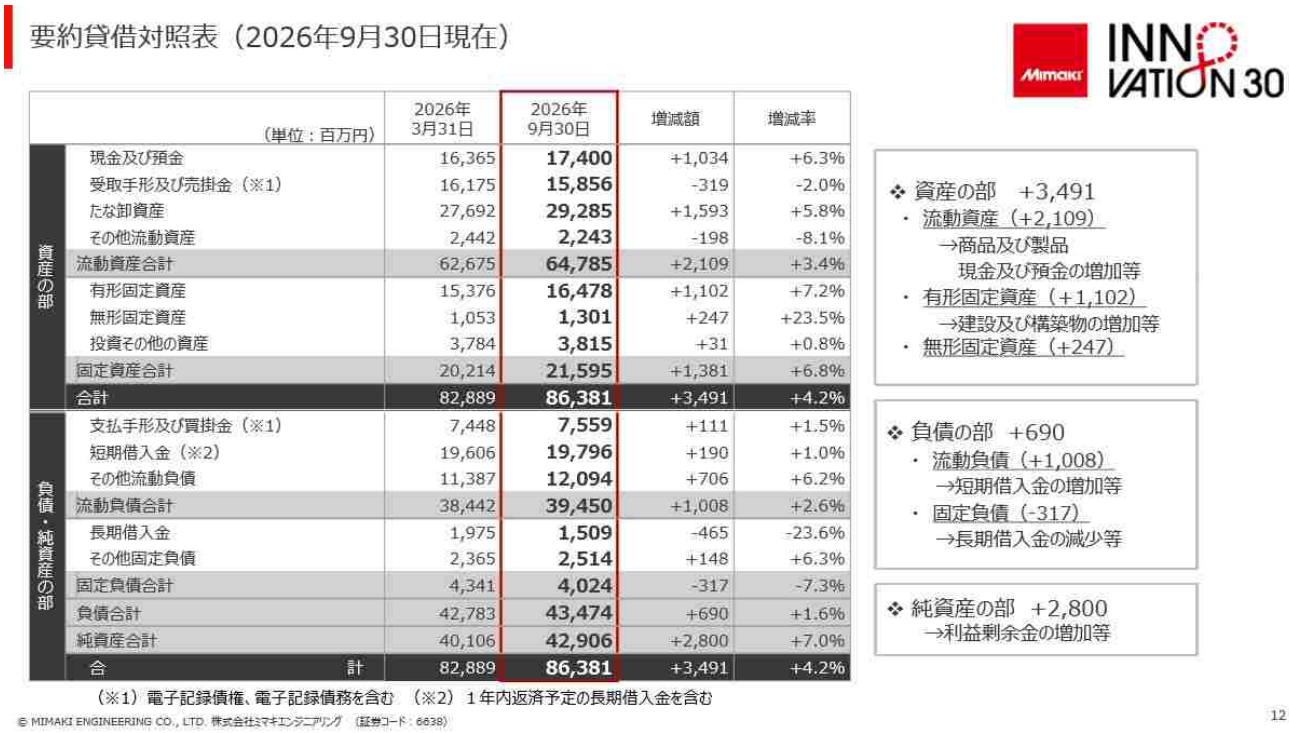


© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング (証券コード：6638)

11

品目別の売上高上期 6 か月の実績です。棒グラフは、製品本体、インク、保守部品、その他という品目別のカテゴリーで、クォーターごとの推移を並べております。ご覧いただきますと分かりますとおり、一番左側の製品本体は新製品の投入時期やプロモーションの有無等によりまして、四半期ごとに変動があります。

一方、右側のインクですが、この上期でも前年同期比 15.2%増で、クォーターごとにも着々と伸びてきているというところです。インクは本体の市場の稼働台数の積み上がりによりまして、着々と伸びております。保守部品も含めまして、こういった継続的なインク、保守部品の需要は、収益基盤の安定化と次の新製品への開発投資を支える部分でも、非常に大きな要素と認識しております。



9 月末の要約貸借対照表バランスシートです。大きな変化は、資産の部の、棚卸資産が約 16 億円増加しております。こちらは新製品の在庫の積増し、また為替影響で円建てでは増えています。

なおキャッシュコンバージョンサイクルにつきましては、9 月末では 1 クォーターちょっと悪化したのですが、おおむね前期末並みのレベルに戻しているところです。

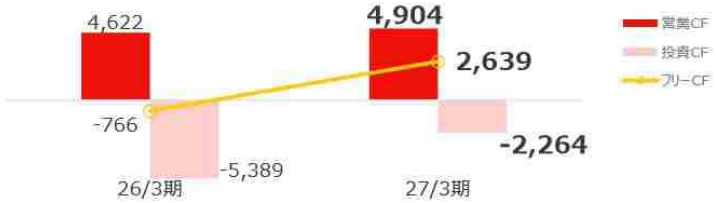
有形固定資産は 11 億円ほど増えておりますが、工場設備等の設備投資によるものです。自己資本比率につきましては、49.4%で前期末からは 1.3 ポイントの改善でした。

キャッシュ・フロー（2026年9月30日現在）

（単位：百万円）	2026年3月31日	2026年9月30日	主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,622	4,904	・税金等調整前当期純利益の増加 ・棚卸資産の増加 ・法人税等の増加 ・減価償却費の増加
投資活動によるキャッシュ・フロー	-5,389	-2,264	・有形固定資産取得の増加 ・子会社出資金の増加
フリー・キャッシュ・フロー	-766	2,639	
財務活動によるキャッシュ・フロー	-1,315	-1,417	・配当金支払の増加 ・長期借入金の減少 ・短期借入金の増加
現金及び現金同等物の期末残高	10,419	11,490	

■営業キャッシュ・フロー、投資キャッシュ・フロー、フリー・キャッシュ・フローの推移

（単位：百万円）



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

13

キャッシュ・フローです。営業キャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前当期純利益の増加があった一方で、棚卸資産の増加等もあり、49 億 400 万円の収入です。投資キャッシュ・フローは、主に有形固定資産の増加等により 22 億 6,400 万円の支出です。この結果フリーキャッシュ・フローは、26 億 3,900 万円の収入という結果でした。

以上が 27 年 3 月期第 2 四半期、並びに上期の実績のご説明でした。

連結業績予想ハイライト（2027年3月期）

		2026年3月期		2027年3月期								
（単位：百万円）		通期実績	売上高比率	下期予想（修正・差引）	売上高比率	前年同期比増減額	通期予想（修正）	売上高比率	前期比増減 金額	前期比増減 率	前期比増減 率(除為替)	前回予想比増減額
売上高		83,725	–	47,788	–	+3,443	**91,400**	–	+7,674	+9.2%	+8.9%	+400
営業利益		9,431	11.3%	4,634	9.7%	-806	**10,300**	11.3%	+868	+9.2%	+11.4%	+800
経常利益		8,907	10.6%	4,337	9.1%	-805	**9,800**	10.7%	+892	+10.0%	–	+1,200
当期純利益*		6,741	8.1%	2,663	5.6%	-1,324	**6,700**	7.3%	-41	-0.6%	–	+600
為替レート（期中平均）	米ドル	150.78円	–	146.00円	–	-9.51円	152.69円	–	+1.91円	+1.3%	–	+3.32円
	ユーロ	174.79円	–	170.00円	–	-11.52円	177.17円	–	+2.38円	+1.4%	–	+3.32円

連結業績予想の前提

売上高、営業利益をはじめ各段階利益ともに上方修正（11月６日公表）

- 売上高　・・・産業用インクジェットプリンタの市場環境は引き続き堅調に推移すると見込むも、中東情勢などグローバルでの市場環境等は引き続き不確実性の高い状況は継続。製品市場別及びエリア別の動向及び新製品投入や顧客志向の営業活動の見通しを踏まえ見直しを実施
  SG、IP、TAの各市場向け・FA事業は増収の想定
- 営業利益・・・上期の上振れ分を反映した一方で、売上原価は原価低減活動を継続。販管費は下期に増加を見込むものの、通期においては概ね計画どおりの費用執行を見込む
- 為替レートの前提・・・３Q以降の前提の為替レートは、期初計画時の想定為替レート USD:146円/EUR:170円から変更なし

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

15

11 月 6 日に公表後の通期業績予想につきましてご説明します。まず売上高ですが、前期比 9.2%増の 914 億円と、期初の予想からは 4 億円の上方修正とさせていただいております。営業利益は前期比 9.2%増の 103 億円、経常利益が前期比 10.0%増の 98 億円、当期純利益が 0.6%減の 67 億円で、期初予想からしますと、営業利益で 8 億円、経常利益で 12 億円、当期純利益で 6 億円、それぞれ上方修正しております。

まず売上高ですが、私どもの産業用インクジェットプリンタの市場環境や需要は引き続き堅調に推移する見通しですが、中東情勢や地政学リスクといった外部要因は、引き続き不確実性が高い状況です。また 9 月に投入しました、新製品の投入状況等をふまえ見直しした結果、全セグメントで増収を見込んでおります。

営業利益につきましては、上期の上振れ分を反映し、通期で 103 億円と 8 億円の上方修正です。この上期では、約 8 億円の米国の追加関税の還付という一過性の特殊要因が含まれております。また 3 クォーター以降の為替レートにつきましては、米ドルが 146 円、ユーロが 170 円と、上期実績と比べますと円高での前提としております。

加えて Mimaki Innovation 30 の方針に沿って、販管費は、将来に向けた成長投資の特に研究開発費や人件費等を計画どおり執行し、下期の費用につきましても事業環境の不確実性をふまえ、一定のリスクを織り込んだ計画としております。このため下期の利益水準は、上期実績を下回る見込みですが新製品の投入効果、また先ほどご説明しましたインクの販売拡大を背景に、事業ビジネスそのものは引き続き堅調に推移する見通しです。

3 クォーター以降の為替レート、繰り返しになりますが、米ドルが 146 円想定で上期実績が 159 円台ですので、13 円ほどの円高、ユーロが 3 クォーター以降 170 円想定で、上期実績と比べますと 14 円ほど円高での前提となっております。

営業利益増減要因　（26/3期 実績 vs 27/3期 予想）

● 為替感応度（１円／年）：USD　売上高 173百万円、営業利益　110百万円
EUR　売上高 131百万円、営業利益　78百万円

■売上・原価・営業利益への為替影響
売上高 875 - 売上原価 338 - 販管費 228 ＝ 営業利益 308

為替感応度（1円/年）

	売上高	営業利益
USD	173	110
EUR	131	78

【通貨別影響額】

USD／	150.78円	→	152.69円	+210
EUR／	174.79円	→	177.17円	+186
CNY／	21.25円	→	22.26円	-83
AUD／	99.81円	→	104.00円	+54
TRY／	3.65円	→	3.47円	-42
その他（INR、THB 等）				-17
			合計	+308

【売上原価率増減要因】
インクと本体モデルの切り替え等によるミックスの変化など、引き続き原価低減活動に取り組むことで原価改善を見込む

＊米国関税還付を除いた売上原価率
49.9%（-0.9pt）



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

16

27 年 3 月期の営業利益の増減要因をまとめております。将来の成長投資というところで、販管費増 42 億円を見込んでおりますが、増収効果で 33 億円、原価率の改善影響で 14 億円の改善というところで、全体としては増益となる見通しです。

市場別売上高予想　（2027年3月期）

（単位：百万円）	2026年3月期 通期実績	構成比率	下期予想（修正・差引）	前年同期比増減額	2027年3月期 通期予想（修正）	前期比増減 金額	前期比増減 率	率(除為替)	構成比率	前回予想比増減額
ＳＧ市場向け	34,650	41.4%	19,347	+1,219	**38,305**	+3,655	+10.5%	+10.4%	41.9%	+1,168
ＩＰ市場向け	21,557	25.7%	14,027	+2,247	**24,082**	+2,525	+11.7%	+11.1%	26.3%	-840
ＴＡ市場向け	9,588	11.5%	5,642	+602	**10,468**	+879	+9.2%	+9.1%	11.5%	-997
ＦＡ事業	4,140	4.9%	2,536	+329	**5,135**	+994	+24.0%	+24.0%	5.6%	+313
その他	13,788	16.5%	6,235	-954	**13,407**	-380	-2.8%	–	14.7%	+755
合 計	83,725	100.0%	47,788	+3,443	**91,400**	+7,674	+9.2%	+8.9%	100.0%	+400



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

17

市場別の売上高予想です。各市場とも新製品投入したこともあり、全市場で増収を見込んでおります。

エリア別売上高予想　（2027年3月期）

（単位：百万円）	2026年3月期 通期実績	構成比率	2027年3月期 下期予想（修正-差引）	前年同期比増減額	通期予想（修正）	前期比増減 金額	前期比増減 率	構成比率	前回予想比増減額
日本	22,319	26.7%	12,678	+901	**24,477**	+2,157	+9.7%	26.8%	+421
北米	18,095	21.6%	9,856	+475	**20,046**	+1,951	+10.8%	21.9%	+806
（現地通貨/$）	119.9M	–	67.5M	+7.2M	**131.4M**	+11.5M	+9.6%	–	-0.3M
欧州	19,403	23.2%	11,578	+735	**21,106**	+1,703	+8.8%	23.1%	-251
（現地通貨/€）	110.6M	–	68.1M	+8.3M	**119.8M**	+9.2M	+8.3%	–	-5.7M
アジア・オセアニア	14,748	17.6%	8,265	+759	**15,969**	+1,220	+8.3%	17.5%	-626
その他	9,159	10.9%	5,411	+570	**9,799**	+640	+7.0%	10.7%	+49
合　計	83,725	100.0%	47,788	+3,443	**91,400**	+7,674	+9.2%	100.0%	+400



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

18

エリア別の売上高の予想です。全エリアの増収を見込んでおります。

設備投資、減価償却、開発投資予想（2027年3月期）



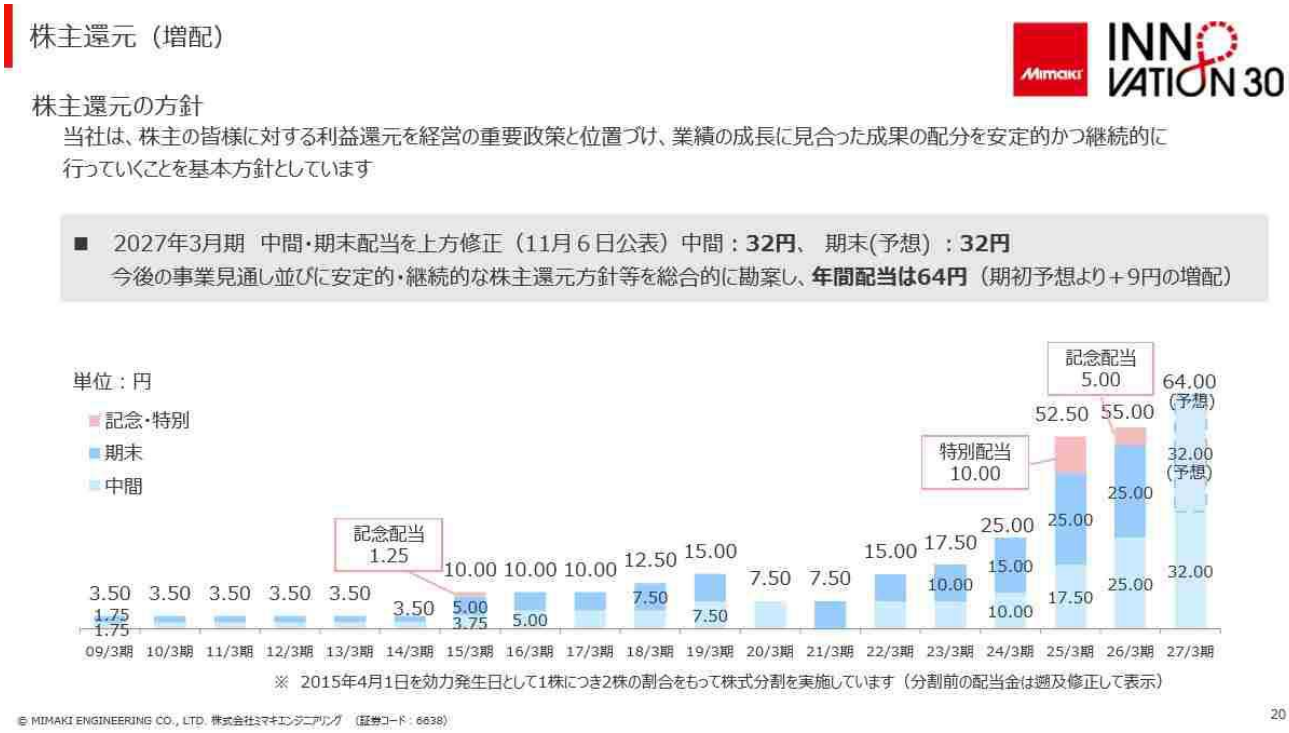
※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 株式会社ミマキエンジニアリング （証券コード：6638）

19

設備投資、減価償却、開発投資の予想です。左側、設備投資につきましては 52 億円を予定しております。大きなところでは開発スペースの確保を目的としました加沢工場 F 棟への設備投資、これはもうすでに 26 年 4 月から使用開始しております。この他、後ほどご説明します工場設備と販売促進用のデモ機投資を予定しております。

開発費は 76 億円、売上高比で 8.3%の予想です。既存領域の新製品の開発のほか、Mimaki Innovation 30 の方針に沿った、新規領域へのイノベーション投資を予定しております。



株主還元です。11 月 6 日に業績予想の修正と併せまして、配当予想も見直しを行っております。中間が 32 円、期末の予想が 32 円で、年間で 64 円の配当予想です。期初予想の 55 円からは 9 円の増配としております。

以上が 27 年 3 月期の業績予想に関するご説明でした。



最後に、トピックスとして上期の実績、主に新製品の説明をさせていただきます。まず Mimaki Innovation 30 の方針に沿った製品戦略は、従来から変更はございません。9 月にまずプリンタ 5 製品（NEXA、JFX220、UJF200 シリーズ、TxF330）を発表しました。インクは、UV の蛍光インクと DTF プリンタ用の新色のインク 2 製品を発表しております。

また Mimaki Innovation 30 の中で、新たな領域の一つで、プリンタの周辺機器、付帯設備を「ミマキ　ラメカニカ」というブランドの方針がございましたが、9 月にラミネーターとシェイカーを投入しております。加えて、リップと呼んでおります最新のソフトウエア RasterLink8 を投入しました。プリンタ単体だけではなく、インク、ソフトウエア、それから周辺機器まで製品ラインナップを広げまして、お客さまの生産現場全体に対する提案力を高めていく狙いです。

主な新製品の内容、特徴、それから狙いにつきましては、次のページ以降のスライドでご説明申し上げます。



まず 1 つ目が SG 市場向けの新製品 NEXA-160UV です。この製品は広告看板等を制作する SG 市場向けで、ロール to ロールの薄いメディアにプリントして、巻き取っていくタイプでインクは UV インクを搭載しているプリンタです。

この製品のターゲットですが、中国、それからアジアを中心とした新興国向けのモデルです。もちろん価格競争力も注視していますが、価格だけではなく、一層二層と印刷を重ねていろいろな表現ができる多層印刷の機能性などの付加価値や品質安定性も兼ね備えた製品です。

ターゲットとしては、中国メーカーのプリンタと戦うための製品です。9 月以降中国を中心とした、アジアの展示会でお披露目をしていますが、販売代理店さんからも前向きなご意見、フィードバックをいただいているところです。

中国、それから新興国市場は、価格が厳しいところはございますが、一方でこういった品質や安定性、また多層印刷など、付加価値を求めるニーズもございますので、需要をしっかりと取り込んでおります。下期以降の売上に大きく貢献してくれることを期待している機種です。



2 つ目が IP 市場向けの UJF200 シリーズです。これは発売から 15 年にわたり、産業印刷のデジタル化を牽引してきました、UJF3042/6042 シリーズの待望の後継機種です。フルモデルチェンジで、既存のお客さまの更新需要に加えまして、生産現場での省人化ニーズも取り込んでいきたいという狙いです。下期以降、この IP の小型のフラットベッドでは、非常に重要な製品です。

従来機種との違いでは、一つは厚みや重さがあるものを直接テーブルの上に置いて、プリントができます。キャリーケースの厚みは、約 20 ㎝ありますが、プリンタのテーブルに置いて、直接プリントできるところが、1 つ目の特徴です。2 つ目はカメラオプションと、ベルトオプションをご用意しまして、例えば印刷位置を画像で自動検出したり、生産ラインとつなぐことができますので生産現場の省人化に貢献できるモデルです。





3 つ目が同じく IP 市場向けの JFX220-2515 です。先ほどの UJF200 は小型でしたが、こちらはテーブルの盤面が 2.5m×1.5m と大きなサイズの UV インク搭載のプリンタです。

従来機種との違いでは 2 点ございまして、ANCHOR TECHNOLOGY という、印刷する素材のサイズに応じて吸着領域を最適化する技術です。多分言葉では上手く伝わらないとは思いますが、プリンタのテーブルに奥まで穴がポツポツと開いていまして、従来機種でも穴が開いておりまして下か

らバキュームで吸引して、テーブルの上に置いた印刷する素材を動かないような機能はございました。

ただテーブル全体を吸引したり、特に軽いものや小型の素材ではテーブル全体を吸引すると、一つ一つの吸着力が弱くなりますので、実際ユーザーさまでは、テープで仮止めすることが多かったのですが、ANKER TECHNOLOGY は置いたところだけ吸引する技術で、軽いもの小さいものでもしっかり吸引するので、仮止めするような事前作業が必要なくなり、非常にかゆいところに手が届く新しいテクノロジーです。

そして 2 つ目は、蛍光ピンク、蛍光イエローという新色の追加です。画像のように、蛍光色は非常に人の目を引くインパクトのあるグラフィック表現が可能になりますので、お客さまの表現の広がりを実現できる機種です。大判のフラットベッド市場における、当社のポジショニングをさらに強化してくれる製品の位置付けです。



4 つ目は TA 市場向けの DTF プリンタです。フィルムにプリントして T シャツ等に熱で転写するプリンタの TxF330-800 です。SG 市場向けでも実績のある 330 エンジンを搭載しまして、従来機比で約 1.5 倍の生産性が特徴です。またインクも新色スカイブルー、ペールピンクと色を追加しまして、表現力のさらなる向上を図っております。



そして Mimaki Innovation 30 の中で新たな領域の一つとして掲げました、プリンタの周辺機器、付帯設備です。左側が SG 市場向けのラミネーター、右側が TA 市場向けの DTF シェイカーです。

ラミネーターはプリントした後、そのまま屋外に看板として出せますが、表面にラミネート加工をすると太陽や雨風に打たれても強度が増すので、プリント後にお使いになるユーザーさんが多く、このラミネーターを「ミマキ　ラメカニカ」ブランドとして発表しました。

右側の DTF シェイカーは、DTF プリンタのフィルムにプリントした後に粉をかけ、T シャツに熱転写しますが、その粉が糊の役割をしております。その粉をかける機械がシェイカーです。これらの新製品は秋の展示会で、順次世界中でお披露目を行っておりまして、営業活動を強化していくところです。下期以降売上に貢献してくれることを大きく期待しております。

トピックス①



その他のトピックス 3 点ご説明申し上げます。

1 点目は富山県砺波市にあります、生産工場を取得しました。私どもの孫会社砺波製作所がこの砺波市にありまして、その隣地にちょうど空き工場がでたので取得をしたものです。

砺波製作所の一部の機能も移行予定ですが、中長期的な狙いとしては、これからハイエンドモデルや超大型の製品などを準備していく予定ですので、それらのモデルの生産体制構築の目的で、この工場を取得しました。生産ラインナップの拡充と、生産能力の拡充を図り、しっかり市場シェアを取っていきたい考えです。稼働は、来期を予定しております。



そして２つ目、この８月にソフトウエア開発会社の株式会社クオリスをグループ会社化しました。彼らのエンジニアリングリソースやグラフィックスの描画技術を Mimaki Innovation 30 の中の一つである、開発中のフレキシブル有機 EL シートですが、これが実現した時に、有機 EL シート自体はミマキで作りますけども、中のコンテンツの課題を彼らのノウハウ、技術が生かせるのではないかという狙いです。

埼玉県さいたま市にあります、さいたま営業所を拡大移転しました。新たにショールームを設置し、大型機などの最新機種の展示が可能になりました。ここもしっかりと売上増加に結び付けていきたいと考えております。

以上が 27 年３月期上期の実績、それから通期の業績予想と上期の主なトピックスについてのご説明でした。
上期の利益は、為替また関税の還付といった特殊要因が含まれておりますが、この新製品の立ち上がりとインク販売の拡大により、事業基盤は着実に強化されているのではないかと認識しております。下期は、上期実績よりも円高の前提と、成長投資を織り込んでいるところがございますが、しっかりと９月にリリースしました新製品の販売拡大を進め、通期の計画達成に向けて、全社一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。本日はご清聴誠にありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

質疑応答

司会 [M]：これより質疑応答の時間とします。画面の「質問する」のボックスにご質問を入力の上、送信をお願いします。いただきましたご質問をこちらでお読みします。それではご質問のある方は入力をお願いします。それではまず、開始前にいただきましたご質問がありますので、お読みします。

質問者 [Q]：上半期の実績をふまえ、下半期さらに来期の事業環境については、どのように展望されていらっしゃるでしょうかといったご質問です。

清水 [A]：足元上期それから足元のところでは、15 ページのスライドにも記載しておりますとおり、市場環境、それから需要は引き続き堅調に推移している実感です。外部要因、地政学リスクは、我々だけではなくほかの企業さまも不確実性は引き続きありますが、当社を取り巻くマーケット自体は堅調の見通しです。来期は、まだ分からない部分が多いですが、ベースとしては堅調に推移するのではないかという認識です。

質問者 [Q]：新機種については、3 月に販売を開始した SG 市場向けや、下期販売開始の IP 市場向け、TA 市場向けのそれぞれの手ごたえについて、どのように認識されていらっしゃるでしょうかといったご質問です。

清水 [A]：新製品の手ごたえですが、まず春先に発売しました新製品、主に UJ330H と UJV200 は 1 クォーターの終わりぐらいから出荷しておりますので、2 クォーターの売上でもこの 2 製品大きく貢献し、順調に立ち上がりましたのでそれなりの手ごたえはある認識でおります。

一方この 9 月にリリースしました 22 ページのスライドの新製品は、実際は今各国の展示会に順次出展しておりますので、エンドユーザーさまからのフィードバックはまだ限られますが、展示会のレポート報告を受ける限り、基本的には前向きでポジティブに受け入れられていると、期待をしております。

質問者 [Q]：米国関税について複数いただいておりますので、まとめてお読みします。米関税の還付について今回の 8 億円全てで還付は完了でしょうか。何期かに分けて還付されるご予定でしょうか。将来の還付額が分かれば教えてください。

また別の方よりいただいております。米国関税還付の申請額はいくらでしょうか。8 億円以外にも還付がある可能性があるでしょうかといったご質問です。

清水 [A]：関税の還付に関してのご質問ありがとうございます。まず申請額については申し訳ございません。公表できないところですが、PL への影響額としては上期の業績のところで説明しました、およそ 8 億円です。当社の認識としては、おおむねこの上期で還付は完了している認識ですが、当局のジャッジがございますので、そこは今の時点ではまだはっきりしない、不透明なところがあるのが現状です。

質問者 [Q]：順調なインクについて、もう少し詳細にお願いします。価格戦略、コスト増に伴う展開ができているか、競合、サードパーティーの動向などはいかがでしょうかといったご質問です。

清水 [A]：インクの売上自体はプリンタの市場の稼働台数が累積的に積み上がってまいりますので、基本的には着々と増加しているところです。一方コストは、今年の春ナフサの問題等で、一部のメーカーより値上げはありました。今後もコストアップにより価格転嫁が必要な場合は、ユーザーさまにお願いしていく方針です。あとサードパーティー、競合の状況ですが、そこは特に大きな変化はないという認識です。

質問者 [Q]：今期下期の営業利益計画が、期初の 55 億から 46 億へ減額された背景を教えてください。新製品投入の初期は利益率が低くなるからでしょうか。

清水 [A]：下期の営業利益は、まず期初予想からは、確かにおっしゃるとおりです。これは先ほどもご説明しましたとおり、特に販管費がある程度リスク要因も含んで予算化しております。原価率は、確かに新製品の投入当初はどうしても能率等も悪いので、徐々にコストが下がっていくところは、傾向としてはあります。ただ全体に与えるインパクトとしては、それほど大きくない認識です。また為替の影響もあります。

質問者 [Q]：砺波新工場について、製品品目、生産品目、既存用途なのか新規用途なのか。加沢工場との役割分担や、移設、集約など、砺波工場立上げに伴う生産能力増は、どの程度の規模になるのか教えてくださいといったご質問です。

清水 [A]：砺波の工場については、まだ取得したところで、稼働に向けて今準備を進めている段階ですので、具体的な生産能力等は現時点では控えさせていただきます。ただ基本的な方針としましては、加沢工場から集約ではなく、新工場ではスライドにありますとおり、超大型製品ですとか高生産モデルに特化した工場するため、加沢工場は今のまま、この砺波市の工場が新たに生産能力として加わるというイメージで、今準備を進めているところです。

質問者 [Q]：資材調達には問題が発生していないでしょうか。インクなど材料高騰による影響が、これから厳しくならないでしょうかといったご質問です。

清水 [A]：材料調達、特にコストのところについて、まずインクは一部のメーカーさんから春先値上げがございました。それ以外では、今は例えば中国から調達している、モーターなどのリードタイムが長くなり、価格が上がっていますが、全体からすると影響は軽微かなという認識です。

今後については、まだ分からないところがございますが、原材料の調達コストが上がる可能性は十分に考えられると思います。その際にはコストに見合った分を、お客さまの価格転嫁等も含めて、もしくは生産工程の中でのコストダウン等で吸収するかを、総合的に検討してまいりたいと考えております。

質問者 [Q]：MI30 に掲げるデジタルペイントや、フレキシブル有機 EL シートなど、新領域の開発状況について何かトピックスがあれば、ご教示いただけないでしょうかといったご質問です。

清水 [A]：新領域の状況は、それぞれ開発は進めておりますが来年の 5 月の決算説明会の時には、1 年間の進捗でなにかしらご報告する予定です。

質問者 [Q]： DTF プリンタについて、競合先との競争環境は変化しているでしょうか

清水 [A]：DTF プリンタの競合状況について、基本的には大きくは変わっておりませんが、DTF プリンタの販売台数の減少は競争環境なのか、市場のシュリンクかも、おそらく疑問に思われてのご質問かなと認識しております。ここは市場環境ではなく、競合に負けている、シェアで負けていると認識しております。環境自体は変わっておりませんので、今回の新製品 TxF330 でしっかりと挽回を図りたい考えです。

質問者 [Q]：足元は順調な業績とお見受けします。街中を歩くと、動画サインボードの広告が増えてきたなと実感しますし、AI でビジュアルが充実した資料を簡単に作れるようになっているとも感じます。近い将来でプリントする広告で生き残るところと、そうでないところはどこで別れるとお考えでしょうか。今時点の御社のご想定をお聞かせくださいといったご質問です。

清水 [A]：おっしゃるとおり、生成 AI 等で簡単にデザインを作れるというところは確かにあります。デジタルサイネージの動画コンテンツと、いわゆる看板ですが、これは会社の意見というよりは私個人の意見ですが、もちろんデジタルのサイネージの強みはあると考えています。

例えば最近は駅の中の案内や、次の電車が来ますなどは、デジタルになっていますが、そういった特に刻々と変わるような「情報を伝える」というところでは、当然デジタルサイネージは圧倒的に強いと思います。

もう一方でこれも私の個人的な感想ですが、山手線の中などデジタルサイネージで CM 等が流れておりますが、私も天気予報は見ますけども、誰も見てないかなというところがあります。一方で広

告看板は、お客さまの商品のみずみずしさや、いろいろなブランドイメージなどを訴求する力はこの看板にはまだまだ可能性あると考えております。

従いまして生産性だけではなく、いろいろなクオリティや表現力という付加価値を付けることで、市場のニーズに応えていきたいと思っております。

また生成 AI は、私ども 3D プリンタのデータでも、今まだ途上ですが生成 AI である程度データを作れるようになると、フルカラーの 3D プリントの障壁が、一つ取り除かれる可能性がるのではあないかというところです。

すでに一部のユーザーさんで行われているのが、まだペットで犬や猫の写真を普通に撮って、それを送ると生成 AI で 3D データ化してくれるというところに使用されています。おそらく猫や犬はある程度種類がいるので、表面だけの画像でも背面はある程度想像できるので、多分まだ人間では難しいところもあるかと思いますが、そういったところでビジネスが広がってくる可能性は十分考えられます。生成 AI もうまく使いながらというところかなと考えております。

質問者 [Q]：インクが伸びているのは新製品効果と別のものと思いますが、改めて要因を教えてください。またインクの利益率はコンシューマー向けと異なり、ハードと大きな差はないとの認識ですが、マージン改善に寄与したとしたらどのように理解したらよろしいでしょうか。

清水 [A]：インクのマージンですが、まずおっしゃるとおり、インクの増加要因はもちろん新製品も多少寄与はしますけども、基本的には過去からの累積台数です。新製品の影響は限定的です。

あとマージンに関しては、ご認識のとおり当然本体の中でもマージンが高いもの、低いもの、インクの中でも高いもの、低いもの、製品ごとにございます。全体のレベルで見ると、本体インクともにマージンの差はないというところです。ただし本体は例えばプロモーションの実施や、どうしてもモデル末期は、市場価格が下がるなど本体側には特殊要因がありますが、インクは基本的に、プロモーションでインクを販売することはほとんどございませんので、そういう意味では安定しているところが本体側との違いではないかなと考えております。

司会 [M]：これをもちまして、質疑応答の時間を終了とさせていただきます。最後に、常務の清水よりごあいさつがございます。

清水 [M]：皆さま、本日は長時間にわたりましてご参加いただき、ありがとうございました。
先ほど申し上げましたとおり、この 9 月に昨年から遅れていたものも含めて、しっかりと新製品を出すことができました。下期以降この新製品を中心にしっかりと販売につなげ、開発メンバーには

来期以降の新製品の種を作ってもらうことで、全社一丸となって通期の計画達成に向けて取り組んでまいります。本日はありがとうございました。

［了］

脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、株式会社 JPX 総研（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。